

不妊治療患者の葉酸サプリメント摂取実態調査

前田優磨¹、小松原千暁¹、森分純子¹、岡村太郎¹、辻勲¹、福田愛作¹、森本義晴²

1) 医療法人三慧会 IVF 大阪クリニック

2) 医療法人三慧会 HORAC グランフロント大阪クリニック

【目的】 出生児の神経管閉鎖障害は妊娠前からの葉酸摂取により、その発症リスクを低減すると報告されており、当院では初診時に葉酸サプリメントの摂取を推奨している。本検討では、患者の葉酸サプリメント摂取の実態を調査し、摂取状況に影響を与える要因について解析し、葉酸サプリメントの摂取率向上のためにどのような介入が効果的であるかを検討した。

【方法】 当院で 2023 年 4 月から 5 月の間に胚移植を実施した患者 247 名に葉酸サプリメント摂取についてアンケート用紙を配布し、院内ポストへの返信を依頼した。本検討は院内倫理委員会の承認を得て実施した。

【結果】 アンケートは 238 名から返却があり、うち 235 名（有効回収率 95.1%）を分析対象とした。葉酸サプリメントを「毎日摂取している」78.7%、「週 3～6 日服用している」8.1%、「週 1～2 日服用している」2.6%、「以前は摂取していたが、今は全く摂取していない」8.1%、「今まで摂取したことがない」2.5%と回答した。葉酸サプリメントを「毎日摂取している」と回答した患者の割合は、患者の年齢、不妊治療期間や出産歴により影響されなかった。一方、葉酸サプリメントを「毎日摂取している」以外と回答した患者群では、「毎日摂取している」患者群に比べ葉酸サプリメントの摂取が「妊娠 1 カ月以上前から推奨されていること」、および「出生児の神経管閉鎖障害の発症リスクが低減すること」を認知している患者の割合が有意に低値であった。

【考察】 葉酸サプリメントの摂取状況は、患者の年齢、不妊治療期間や出産歴に影響されないが、葉酸サプリメント摂取の開始時期や効果について情報を認知しているか否かに影響されることが示唆された。摂取率向上のためには、摂取する適正時期やその効果についても患者に十分に理解してもらえるよう努める必要がある。